

公立大学法人京都市立芸術大学中期目標（案）

前文

京都市立芸術大学は、1200年の歴史と伝統を有する国際的な文化芸術都市である京都に位置する芸術大学として、130年余りにわたって、国内外の芸術界や産業界で活躍する人を輩出し、文化芸術の発展に貢献してきた。

近年、文化庁の京都への全面的な移転が決定されるなど、文化芸術の振興発展に果たすべき京都の役割や責任が益々高まってきており、公立の芸術大学として、手厚い少人数教育など、これまでの永年の取組を継承するとともに、自由で独創的な研究と質の高い芸術教育、創造的な人の育成、次世代の先駆けとなる教育研究活動を一層推進していく必要がある。

また、本中期目標期間には、京都駅東部エリアへのキャンパス全面移転という、非常に重要なターニングポイントを迎える。

京都は、千年を超える歴史の中で、日本の伝統や文化を育んできた中心地であり、数多くの有形・無形の文化遺産を持つ、世界の人々を惹きつけるまちであると同時に、様々な特長を持つ大学が集積し、創造的な学術・研究が展開され、伝統産業から世界的な先端企業までが共存するなど、あらゆるジャンルの活動を内包することで、成長してきたまちでもある。

移転予定地は、そのまちの玄関口として、世界中から、国や人種、宗教などあらゆる垣根を越えた人々が集まる京都駅に近接しており、移転後は、その立地を活かした新たな活動や交流、社会還元の取組が期待される。

これらを踏まえ、京都芸大が、京都というまちが持つ文化的・歴史的なポテンシャルを活かした活動を深化させるとともに、既存の芸術の枠にとらわれない創造的な活動を展開することで、国内外からあらゆる分野の人や才能が集まり、刺激し合う「世界に広がる創造の大拠点」となることを目指し、次のとおり基本目標を定める。

1 教育研究活動の展開

伝統的な都市景観をはじめ、市民の暮らしの中に繊細な美的感覚が息づいている京都の文化風土に根ざしつつ、学生と教員が一体となった独創的な研究と質の高い芸術教育を推し進め、新しい芸術の可能性を切り開き、国際的な文化芸術の基軸となることを目指す。

2 創造的な人の育成

芸術分野のみならず、あらゆる分野を超えた人ととの交流が行われてきた京都特有の歴史と環境を活かし、高度で、きめ細やかな教育を推進するとともに、多様な分野との交流を通じて、学生の可能性を伸ばし、世界にはばたく芸術家をはじめ、社会に創造的な活力をもたらす人を育成する。

3 教育研究成果の発信と還元

京都市立芸術大学が蓄積してきた有形無形の文化資源と、130年余の歴史を踏まえながら展開される創造的な教育研究活動の成果を、創造的で多様な手法により積極的に発信し、市民や社会に還元する。

第1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

平成30年4月1日から平成36年3月31日までの6年間とする。

2 教育研究上の基本組織

教育研究上の基本組織として別表に記載する学部、研究科等を置き、大学の基本的な目標及び中期目標の達成に努める。

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の内容と成果に関する目標

大学の教育・研究理念、目的を踏まえて策定された三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位認定に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針））に基づく、体系的に組織的な教育を実施し、世界にはばたく芸術家をはじめ、社会に創造的な活力をもたらす人を育成する。

ア 学士課程

少人数教育と体験型教育を通して、確かな技能、技術を体得させるとともに、その幅を広げる教養も修得させ、創造性豊かな人を育成する。

イ 大学院課程

高い水準の専門的研究教育を通して、専門的かつ高度な技能、技術及び豊かな教養を修得させ、国際感覚を兼ね備え、次代の文化芸術を先導するとともに社会に創造的な活力を与える高度な専門家を育成する。

(2) 教育環境等の向上に関する目標

芸術教育の特性を踏まえ、教員の資質向上に努めるとともに、学生の自主的な学びを促進する環境を充実させるなど、専門的な教育研究環境の確保を図る。

また、専門的な教育研究を一層深める、幅広い教養を身につけるため、大学のまち京都の特性を活かし、他大学とも連携し、学びの場の充実を図る。

(3) 学生の支援に関する目標

ア 個々の学生の学習、研究をサポートするとともに、心身ともに充実した学生生活を送れるよう、きめ細かな支援を充実させる。

イ 芸術家へのキャリアサポートや企業等への就職支援について、在学生のみならず卒業生も対象に、一人ひとりの状況に応じた支援を充実させる。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

これまでの伝統を次世代に確実に継承するとともに、時代の流れや既存の価値観に左右されない自由で独創的な研究を推進し、常に新しい芸術の可能性を追求する。

また、その研究成果を社会に還元することで、京都はもとより国際的な文化芸術の振興・発展に寄与する。

(2) 研究への支援等に関する目標

学生及び教員が研究に邁進できるよう、個人研究や共同研究の内容に即した研究支援の充実を図る。

3 その他の中標

(1) 社会・市民への教育研究の成果の還元に関する目標

当該期間中のキャンパス移転により、市民が大学に触れ合う機会が多くなるため、大学資源の提供の取組を強化し、教育研究の成果をより積極的に地域社会に還元する。

(2) 学外連携に関する目標

京都の文化芸術の裾野を広げ、新しい芸術の可能性を追求し、地域の活性化など社会貢献を果たすとともに、京都の伝統文化や地域産業の振興にも寄与するため、産業界、福祉医療分野、地域団体、文化芸術機関、伝統文化関係団体、芸術系大学、その他の大学、小中高等学校等との連携を推進する。

(3) 国際化の推進に関する目標

国際的に活躍できる創造的な人を輩出するため、海外の芸術大学やアーティスト等との交流・連携を推進するとともに、学生の海外留学や留学生の受入に関する支援の充実に努める。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織の見直しと経営の効率化に関する目標

教育研究上の課題や社会状況の変化に対応するとともに、経営の効率化を図るため、適宜組織や規程、業務の見直しを行う。

2 組織力向上に関する目標

大学の理念、目標を踏まえた高度な教育研究活動や大学の戦略的かつ安定的な運営を支えるため、教職員の意欲・資質の向上も含めた組織力の向上を図る。

第4 財務内容の改善に関する目標

1 外部資金その他の自己収入の増加に関する目標

自由で独創的な教育研究環境の充実を図るため、外部資金の獲得に努め、大学の財政基盤を強化するとともに、寄付金の募集など、大学の移転も見据えた取組を推進する。

2 経費の効率化と資産運用の改善に関する目標

効率的な大学運営のため、教育研究の質を低下させることなく、組織運営の効率化と人員配置の適正化を連動させつつ、業務の内容や方法等の見直しを行うとともに、資産の状況を常に把握、分析し、効率的かつ効果的な資産の運用を図る。

第5 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

自己点検・評価の結果を公開し、社会・市民に対する説明責任を果たすとともに、評価結果を教育研究活動及び大学運営の改善に活用する仕組みを構築する。

2 広報の充実に関する目標

大学への理解と広範な支援を得るために、広報の充実を図り、法人の運営や大学の教育研究の情報について積極的に国内外に発信する。

第6 キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標

1 キャンパス移転に向けた取組の推進に関する目標

キャンパスの全面移転に向けた課題を整理し、必要な取組を適宜実施するとともに、大学の一層の飛躍につながるよう、移転を見据えた取組を検討・推進する。

また、移転整備プレ事業など、移転の機運が高まるような取組を推進する。

第7 その他の業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備等に関する目標

新キャンパス移転までの間も良好な教育研究環境を確保するため、現キャンパスの既存施設及び設備を適正かつ計画的に維持管理する。また、キャンパス移転後の、施設の整備と最適な維持管理に向けた検討を進める。

2 安全管理に関する目標

学生及び教職員の安心・安全な教育研究環境を確保するとともに、災害、事故、犯罪等に対して迅速かつ適切に対応するための体制を構築する。

3 法令遵守及び人権の尊重に関する目標

教職員の法令遵守の意識向上を図るとともに、人権の尊重の取組を徹底する。

(別表)

学部	美術学部 音楽学部
研究科	美術研究科 音楽研究科
研究機関	日本伝統音楽研究センター 芸術資源研究センター
附属施設	附属図書館 芸術資料館 ギャラリー@KCUA